

平成23年度 森プロ事業実績：円原森プロ

(平成24年3月末現在)

	H21～22年度		H23年度				5カ年 計画	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考		
集約化(ha)	300	155	100	145	145%		400	
作業道(m)	4,200	1,467	3,000	442	15%		12,700	
間伐等	面積(ha)	65	54	39	11	28%	利用+切捨	202
	材積(m3)	3,800	956	2,400	266	11%	支障木含む	12,500
備考								

21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)	(AVG) 4,602円/m3
22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)	1,500円/m3
23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)	1,000円/m3(予定)

施業集約化の状況

- ・森林組合と(株)遠藤造林が協力して、地元精通者の協力を得ながら森林所有者へ説明を行い、施業集約化を進めている。

施業プランの活用状況

- ・精算時に施業プランの書式を用いて、森林所有者へ説明及び精算を行った。

施業プランナーの養成状況

- ・施業プランナー：4名(H19全森連研修：1名、H20県研修：1名、H22県研修：1名、H23県研修：1名)

作業道の状況

- ・急傾斜地や崩壊地、谷川沿いなど災害発生の恐れのある危険地帯は避けて、できるだけ等高線に沿った平面線形とする。
- ・地形や地質、利用目的等に応じた幅員とする。(基本は3.0m、機械の作業ポイントは3.6m)
- ・各林分の資源状況を把握し、木材生産に関して費用対効果の高い線形とする。
- ・片切片盛を原則とし、掘削した土砂は盛土部に利用し土工量の均衡に努め、残土の発生を抑制。残土は災害の恐れのない場所に土捨場を設け、適切に処理。
- ・盛土の土羽尻の崩壊を防ぐため、林内に残置された枝条を除去。
- ・礫を沢山含む土質では路肩部分が沈下しないよう、横断勾配を水平に仕上げるよう施工。
- ・排水処理を徹底して行き、壊れにくい道を作る。(流末部分での洗掘防止)
- ・急傾斜地では丸太組工等で切土法面が少なくなるように施工。



作業道の開設状況

作業システムの状況

- ・基本は車両系システムとし、作業道から遠い林分は架線系システムで木材生産を行う。

<車両系システム(メインシステム)>

チェーンソー(伐倒・造材) → グラップル(積込) → 4tトラック(運搬)

<架線系システム>

チェーンソー(伐倒) → スイングヤーダ(集材) → チェーンソー(造材) → グラップル(積込) → 4tトラック(運搬)

- ・2tトラックの小運搬は土場での積み卸しに手間(経費)がかかるため、4tトラックで山に入り、そのまま市場等へ運搬する方法に変更。
- ・県森連等との連絡を密に取り、製材工場等のニーズに応じた造材、選別を行う。
- ・一部小規模皆伐を行い、更新を図る。



高性能林業機械の作業状況



利用間伐を実施した林分

その他

- ・プロジェクトの進捗状況や問題点等を定期的に話し合う「円原森林づくりプロジェクト運営委員会」及びJV幹部による打ち合わせ会議等を開催。(23年度は1回開催)
- ・担当レベルによる打ち合わせ、現地調査は随時開催。
- ・担当レベルによる現地研修会を開催。(2回)
- ・総会資料等へ掲載し、森林組合員をはじめ一般市民へ健全で豊かな森林づくりのPRを行った。



森プロの成果

- ・(株)遠藤造林は作業道の開設技術の向上、森林組合は作業道の設計監理技術が向上した。
- ・作業道開設により森林所有者の自己山林への意識が高揚した。
- ・作業の効率性ばかりに目を奪われず、間伐による下層植生の回復、雪害木等の除去、必要に応じて植栽をするなど、森林を守るための間伐に取り組む。
- ・21～23年度事業の精算により、森林所有者へ利益の還元を行い、森林所有者の林業意欲の喚起を図った。

今後の課題

- ・事業計画書に基づき、作業道の計画的な開設及び素材生産量の増大に努める。
- ・23年度事業も早期に精算を行い、森林所有者の林業意欲を喚起する。
- ・県森連と密に連絡をとり、有利な販売先情報を入手する。